

高校生における充実した日常生活を送るための効果的な体育授業に関する研究

HAYASHI, Sonoko / 林, 園子

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ健康学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学スポーツ健康学研究 / 法政大学スポーツ健康学研究

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

29

(終了ページ / End Page)

38

(発行年 / Year)

2013-03-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00008706>

高校生における充実した日常生活を送るための 効果的な体育授業に関する研究

A Study on the effective Physical Education Class for Leading the full everyday life in a high school student

林 園子¹⁾

Sonoko Hayashi

[要旨]

本研究では、高校生の日常生活における現状問題を踏まえ、実際の「日常生活状況」と「体育授業への意識」との関係に着目し、充実した日常生活及び学校生活を送るために寄与するための効果的な体育授業の検討を行うことを目的とした。結果、運動・スポーツを通して充実した日常生活を送るために体育授業を展開するための重要なポイントが示唆された。今後は、本研究で得られた結果をもとに、日常生活において自主的・自発的に運動・スポーツを行うことができるために実践的に活用できる水準での体育授業の具体的な内容の追及の必要性があると考ええる。

key word: Satisfaction of Everyday Life, Sport Activity, Physical Education

キーワード：日常生活充実度，運動・スポーツ活動，体育授業

1. 研究の目的

近年、高校生の日常生活の現状においてベネッセ教育研究開発センター（2007）¹⁸⁾は「生活が忙しい」「睡眠時間を増やしたい」「友人などとの約束をきちんと守る」とめまぐるしい日常生活を送っているものの、「将来の目標がない」「将来を考えると不安である」者が多い状況であると述べており、学校生活では「不登校」「中途退学」が増加傾向にある。文部科学省（2011）²³⁾は、不登校となる理由に「情緒的混乱」「人間関係」「学業不振」、中途退学となる理由に「もともと高校生活に熱意がない」「授業に興味がない」「人間関係がうまく保てない」「学校の雰囲気が合わない」などを挙げている。現在の高校生は、日に日に積み積った多忙感や不安、悩み、ストレスがバーンアウトし、無気力状態で生活している傾向にあるといえる。

高校生は、身体面及び精神面において成人を迎

えるための最終段階の時期であり、生きている中で遭遇する様々な諸問題に対して自分の力で極力解決しようと試みながら生活していると思われる。しかしながら、まだ社会的に知識や経験不足な部分もあり、問題を自分自身の力で解決するまでに至りにくい、もどかしい時期でもあるといえる。実際には、抱えている問題が解決されないまま日々の生活を過ごしており、日が過ぎゆくごとに更なる問題が次々と上載せられ、その重圧に耐えきれず、ストレスのみならず疲労感や不定愁訴を引き起こすという心身の健康に対して負の相乗効果をもたらせている現状である。

これらの現状を解消するために、高校生に対して魅力のある日常生活、特に日常生活の大半を占める充実した学校生活を送ることができる環境を提供することが望ましいといえる。その環境のひとつに学校教育の現場における運動・スポーツを

1) 法政大学社会学部助教（スポーツ健康学部兼担教員）

行う機会の充実が挙げられる。

中央教育審議会（1997）⁵⁾は、学校教育の在り方について「日常生活において現在及び将来に何らかの形で役に立つものでなければならない」としている。また、人間が運動・スポーツを行う意義として、スポーツ振興基本計画（2006）²¹⁾は「身体面では、健康の保持増進や体力向上に寄与するとし、精神面では、爽快感、達成感、連帯感、ストレスの発散、心の安定に効果をもたらす、社会面では、仲間とのコミュニケーション能力、規範能力、責任能力などを養うことができる」としている。したがって、学校教育の現場における運動・スポーツを行う機会の充実が高校生の現状問題を解消へ導くための要素がまさに備わっているといっても過言ではない。すなわち、運動・スポーツに触れ合うことのできる場である体育授業の充実が高校生には必要不可欠であるといえる。

本研究では高校生の日常生活における現状問題を踏まえ、実際の「日常生活状況」と「体育授業への意識」との関係に着目し、充実した日常生活及び学校生活を送るために寄与するための効果的な体育授業の検討を行うことを目的とした。

2. 研究の方法

2.1 調査実施及び調査方法

本研究の調査は、東京都、埼玉県、神奈川県に所在する高等学校3校全学年454名を対象に実施した。調査期間は、2012年5月～6月であった。調査内容は「日常生活充実度」、「運動・スポーツ活動状況」、「日常生活及び学校生活への意識」、「体育授業への意識」に関する内容について独自のアンケート調査を実施した。

「日常生活充実度」は、前田（2006）²⁰⁾が文部科学省（2006）の「生活実態調査」から日常生活において自主的・自発的に運動・スポーツ行うためには「生活習慣」「運動習慣」「意欲」「保護者」の4要素が重要であるとしており、この4要素をもとに、各要素に含まれている「生活」「家族」「他者との関係」「趣味」「学校」から40項目を設定した。また「日常生活及び学校生活への意識」「体育

授業への意識」6項目を使用した。有効回答数は454名（100.0%）であった。アンケート調査で収集されたデータから高校生の基本的特性、スポーツ特性、運動・スポーツ活動状況、日常生活状況を中心に必要に応じて χ^2 検定を用いた。

3. 結果と考察

3.1 高校生の日常生活及び学校生活、運動・スポーツ活動に対する諸特性

3.1.1 日常生活及び学校生活の意識

Table 1は、現在の高校生における日常生活及び学校生活、体育授業に対する意識状況を示したものである。

日常生活の意識において「毎日、学校が楽しい」の項目は全体で「よくあてはまる」26.4%（n=120）、「あてはまる」49.8%（n=226）、「学校以外の日常生活が楽しい」の項目は全体で「よくあてはまる」29.5%（n=134）、「あてはまる」49.6%（n=225）と両項目より約8割近くの者が充実した日常生活や学校生活を送っている状況であった。性別間では、両項目ともに肯定的な回答に対して男子は7割以上、女子は8割以上満足している結果を示した。

次に、「自分は大変元気である」の項目は全体で「よくあてはまる」26.7%（n=121）、「あてはまる」36.3%（n=165）、「将来への夢や希望がある」の項目は全体で「よくあてはまる」22.7%（n=103）、「あてはまる」27.8%（n=126）の者が将来を見据えた前向きな生活をしている状況を示した。しかし、性別間では、男子において「将来の夢や希望がある」の項目を肯定的にとらえる者が半数を欠く結果を示した。これらのことから、男女共に一日一日の生活に対して概ね大きな不満をもっていない傾向がみられるものの、自分自身の将来への具体的なビジョンを掲げてその目標に向かって生活をしていく姿勢や必要性を感じる者が少ない現状であるといえる。

さらに、体育授業への意識において「体育の授業が好きである」の項目は全体で「よくあてはまる」26.0%（n=118）、「あてはまる」33.3%（n=151）

Table 1 現在の日常生活及び学校生活、体育授業への意識

質問項目		男子 N=194		女子 N=260		全体 N=454		χ^2 検定
		n	%	n	%	n	%	
毎日、学校が楽しい	5 よくあてはまる	39	20.1	81	31.2	120	26.4	$\chi^2=11.874$ DF=4 P>0.01 **
	4 あてはまる	98	50.5	128	49.2	226	49.8	
	3 どちらともいえない	47	24.2	37	14.2	84	18.5	
	2 あまりあてはまらない	8	4.1	9	3.5	17	3.7	
	1 あてはまらない	2	1.0	5	1.9	7	1.5	
学校以外の日常生活が楽しい	5 よくあてはまる	56	28.9	78	30.0	134	29.5	$\chi^2=8.619$ DF=4 n.s
	4 あてはまる	90	46.4	135	51.9	225	49.6	
	3 どちらともいえない	43	22.2	38	14.6	81	17.8	
	2 あまりあてはまらない	5	2.6	4	1.5	9	2.0	
	1 あてはまらない	0	0.0	5	1.9	5	1.1	
自分は大変元気である	5 よくあてはまる	49	25.3	72	27.7	121	26.7	$\chi^2=2.318$ DF=4 n.s
	4 あてはまる	69	35.6	96	36.9	165	36.3	
	3 どちらともいえない	58	29.9	65	25.0	123	27.1	
	2 あまりあてはまらない	16	8.2	21	8.1	37	8.1	
	1 あてはまらない	2	1.0	6	2.3	8	1.8	
将来への夢や希望がある	5 よくあてはまる	40	20.6	63	24.2	103	22.7	$\chi^2=2.544$ DF=4 n.s
	4 あてはまる	52	26.8	74	28.5	126	27.8	
	3 どちらともいえない	61	31.4	72	27.7	133	29.3	
	2 あまりあてはまらない	30	15.5	32	12.3	62	13.7	
	1 あてはまらない	11	5.7	19	7.3	30	6.6	
体育の授業が好きである	5 よくあてはまる	64	33.0	54	20.8	118	26.0	$\chi^2=12.189$ DF=4 P>0.05 *
	4 あてはまる	66	34.0	85	32.7	151	33.3	
	3 どちらともいえない	44	22.7	85	32.7	129	28.4	
	2 あまりあてはまらない	14	7.2	21	8.1	35	7.7	
	1 あてはまらない	6	3.1	15	5.8	21	4.6	
毎回、体育の授業が楽しい	5 よくあてはまる	48	24.7	49	18.8	97	21.4	$\chi^2=5.415$ DF=3 P>0.05 *
	4 あてはまる	72	37.1	71	27.3	143	31.5	
	3 どちらともいえない	53	27.3	102	39.2	155	34.1	
	2 あまりあてはまらない	15	7.7	26	10.0	41	9.0	
	1 あてはまらない	6	3.1	11	4.2	17	3.7	
	不明	0	0.0	1	0.4	1	0.2	

 : 8割以上9割未満
 : 6割以上7割未満

 : 7割以上8割未満

の者が体育授業を肯定的にとらえる結果を示した。性別間では、肯定的な回答に対して男子は6割強、女子は5割と男子の意識が高い結果を示した。「毎回、体育の授業が楽しい」の項目は全体で「よくあてはまる」21.4% (n=97)、「あてはまる」31.5% (n=143)の者が満足をしていた。しかし、性別間

では、肯定的な回答に対して女子が4割強であり男子より意識が低い結果を示した。これらのことから、女子において体育授業の中で、運動・スポーツと触れ合うことにより得ることのできる楽しさや喜びを感じる場面や機会が少ない現状にあると考える。

3.1.2 運動・スポーツ活動状況

Table 2 は、現在の高校生における運動・スポーツ活動状況を示したものである。

全体において「運動・スポーツは体育授業以外ではほとんど行っていない（体育授業のみ）」は48.5%（n=220）、「学校の運動部活動に入部している（運動部活動）」46.7%（n=212）、「学校外のクラブチームに所属している（クラブチーム）」3.1%（n=14）、「学校のスポーツ教室やレッスンに参加している（習い事・レッスン）」5.7%（n=26）であり、運動・スポーツを行う場面は体育授業のみの者と運動部活動に参加している者が半数ずついる状況を示した。性別間では、男子において「運動部活動」62.4%（n=121）、女子は「体育授業のみ」60.8%（n=158）と運動・スポーツの活動スタイルに違いがみられた。女子の運動・スポーツを行うことに対する意欲が低い結果を示した。

これらのことから、3.1.1の結果と合わせて、男子は体育授業や運動部活動など運動・スポーツに関わる機会に対して積極的に取り組む姿勢がみられるが、女子は、運動・スポーツに対する意識、行動ともに消極的であることから、男女間で日常生活及び学校生活に運動・スポーツを取り入れる意識やとらえ方、必要性に違いが生じていると考えられる。

3.2 日常生活における充実状況

Table 3 は、「日常生活充実度」40項目を5段階評価で回答した結果の平均値を示したものである。

全体において高い値（4.00以上）の大項目は、「生活」3/12項目、「他者との関係」7/18項目、「趣味」2/6項目、「学校」1/4項目であった。一方、低い値（2.99以下）の大項目は、「生活」0/12項目、「他者との関係」5/18項目、「趣味」2/6項目、「学校」2/4項目であった。全体を通して「他者との関係」（特に中項目「仲間・友人」）において高い値を示したことから、日常生活で接する人との関係は良好であり、人を大切にする心をもっている者が多いといえる。しかし、中項目の「評価」や大項目「趣味」、「学校」の項目の値が低かったことから、自分自身の状況や存在を否定的にとらえている傾向がみられ、周囲の人との関係を壊さないように築く努力はできるものの、リーダーシップ性や自己アピールなど人前に出て物事をまとめたり、決めたりする場面に対しては消極的な態度がみられ、人に嫌われない生活を送ることを望む者が多いと考える。

性別間において、 χ^2 検定の結果より男女間の分散に有意な差がみられ、それぞれの特徴が示された。男子は、大項目「生活」において「毎晩、よく眠ることができる」（3.75）、大項目「他者と

Table 2 運動・スポーツ活動状況

	男子		女子		全体		χ^2 検定	DF	P
	N=194		N=260		N=454				
	n	%	n	%	n	%			
1. 体育授業のみ	62	32.0	158	<u>60.8</u>	220	48.5	36.923	1	***
2. 運動部活動	121	<u>62.4</u>	91	35.0	212	46.7	33.44	1	***
3. クラブチーム	11	5.7	3	1.2	14	3.1	7.582	1	**
4. 習い事・レッスン	8	4.1	18	6.9	26	5.7	1.613	1	n.s

2・3・4は複数回答

***P<0.001 **P<0.01

の関係」において「最低一日一回は、家族とそろって食事をする」(3.55)で女子より高い値を示した。これより、男子は規則正しい生活を送るよう心がけている態度が伺える。女子は、大項目「生活」において「毎日、きちんと朝ごはんを食べている」(4.70)、「自然や夜景などを見て感動する」(4.22)、大項目「他者との関係」において「自分に大切だと思う人がいる」(4.52)、「仲の良い友達がいる」(4.69)、「あいさつをしたり、されたりすると気持ちが良い」(4.23)、大項目「学校」において「勉強をすることは大切だと思う」(4.35)で男子より高い値を示した。また、大項目「趣味」

において「お金を払って試合会場に行き、スポーツを観たり、応援したりする」が男子より低い値を示した。これらの項目から、女子の日常生活は、感情が豊かであり、人との関係を大切にする態度がみられた。一方、高校生としての務めであり、生活の最も重要な部分である勉強や運動・スポーツに励む態度が希薄であったことから、学校生活は、高校生の生活の核となる勉強や運動・スポーツの部分が充実しているのではなくそれ以外の環境に魅力があり、その環境に対しては意欲的に行動を起こしている状況が伺える。

Table 3 日常生活の充実状況

大項目	中項目	質問項目	全体 N=454		男子 N=194		女子 N=260		F 値	P
			M	SD	M	SD	M	SD		
生活	習慣	1 毎日、きちんと朝ごはんを食べている	4.57	0.89	4.40	1.07	4.70	0.70	41.80	***
		10 約束はきちんと守る	3.87	0.86	3.82	0.84	3.91	0.87	1.09	ns
		16 後片づけや掃除を進んでする	3.10	1.09	3.09	1.14	3.12	1.06	1.79	ns
		4 色々なことに興味を持ち、挑戦しようとする	3.68	0.98	3.69	1.04	3.67	0.94	1.25	ns
	健康	7 からだの調子が良い	3.63	1.05	3.58	1.02	3.67	1.07	1.04	ns
		13 毎日、楽しく食事をしている	4.13	0.93	3.97	0.98	4.26	0.88	0.00	ns
		15 一つの事に集中できる	3.83	1.06	3.76	1.10	3.89	1.03	2.22	ns
		20 難しいことでも、あきらめず最後までやる	3.13	1.04	3.16	1.04	3.10	1.04	0.00	ns
		23 毎晩、よく眠ることができる	3.73	1.12	3.75	1.08	3.72	1.15	4.04	*
		28 いつもおだやかな気持ちでいる	3.52	0.98	3.55	0.95	3.49	1.00	0.76	ns
他者との関係	家族	31 くよくよしない	3.07	1.13	3.18	1.07	2.98	1.16	0.49	ns
		38 自然や夜景などを見て感動する	4.04	1.07	3.79	1.13	4.22	0.99	5.09	*
		2 自分の家族は仲が良い	4.07	0.99	3.94	1.00	4.17	0.98	0.48	ns
		11 家族と色々な話をよくする	3.77	1.08	3.54	1.10	3.93	1.04	3.65	ns
	仲間	19 家族と一緒に運動・スポーツをする	2.05	1.18	2.10	1.24	2.01	1.13	3.01	ns
		25 最低一日一回は、家族そろうて食事をする	3.49	1.44	3.55	1.36	3.44	1.49	7.33	**
		29 家族と運動・スポーツの話をよくする	2.92	1.34	3.11	1.31	2.78	1.35	0.98	ns
		33 家族を大切に思っている	4.15	0.97	3.95	0.99	4.31	0.93	0.52	ns
	評価	5 きちんとあいさつができる	4.02	0.82	3.96	0.85	4.06	0.81	0.04	ns
		14 自分に大切だと思う人がいる	4.28	0.97	3.95	1.07	4.52	0.80	19.12	***
趣味	仲間	22 まわりの人と協力し合える	3.76	0.88	3.63	0.90	3.85	0.87	3.75	ns
		27 仲の良い友達がいる	4.59	0.70	4.46	0.69	4.69	0.69	10.50	**
		30 人を喜ばせることが好きである	4.13	0.88	3.89	0.92	4.31	0.81	0.33	ns
		36 あいさつをしたり、されたりすると気持ちが良い	4.06	0.93	3.84	1.02	4.23	0.82	7.24	**
	評価	8 まわりの人によく「明るい」と言われる	3.51	1.13	3.27	1.10	3.69	1.12	1.11	ns
		17 まわりの人によくほめられる	2.95	0.90	2.92	0.93	2.97	0.87	2.97	ns
		35 自分のことが好きである	2.84	1.07	3.06	1.05	2.68	1.06	3.13	ns
		37 ボランティア活動や人助けをしたいと思う	3.64	0.98	3.54	1.03	3.72	0.94	2.13	ns
	運動・スポーツ	39 リーダーや物事を仕切る役目をよく担当する	2.92	1.22	2.97	1.25	2.88	1.19	0.03	ns
		40 人によく頼られる	3.22	1.01	3.19	1.05	3.25	0.99	0.93	ns
学校	意欲	3 熱中できるものがある	4.16	0.98	4.18	0.93	4.14	1.01	2.95	ns
		12 趣味がある	4.16	1.01	4.12	1.00	4.18	1.02	0.11	ns
		24 特技がある	3.18	1.25	3.14	1.27	3.21	1.23	0.17	ns
		6 テレビでスポーツを観たり、応援したりする	3.58	1.25	3.68	1.27	3.50	1.23	0.29	ns
	運動・スポーツ	21 お金を払って試合会場に行き、スポーツを観たり、応援したりする	2.36	1.41	2.69	1.45	2.11	1.33	4.97	*
		32 運動・スポーツを学校以外でよくする	2.63	1.34	3.06	1.32	2.30	1.27	0.58	ns
	意識	9 勉強ができる	2.60	1.05	2.85	1.04	2.42	1.03	1.82	ns
		18 勉強が好きである	2.44	1.16	2.39	1.14	2.48	1.18	0.47	ns
		26 勉強をすることは大切だと思う	4.27	0.84	4.16	0.95	4.35	0.75	4.34	*
		34 学校の先生が好きである	3.32	1.03	3.22	1.04	3.40	1.02	0.28	ns

：4.00以上
***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05
：2.99以下

3.3 「日常生活充実度」の因子構造

Table 4 は、「日常生活充実度」40項目の妥当性を検討するにあたり、そして高校生の潜在する構成概念を見つけ出すために因子分析を行った。因子構造の分析の結果は、「日常生活充実度」の因子は分散比57.2%が説明され、9 因子が抽出された。

第1因子に高い負荷量を示した項目は、日常生活における運動・スポーツとの関わりを示している内容から『運動・スポーツとの関わり』、第2因子の項目は、周囲の人や物に対する態度を示している内容から『感情』、第3因子の項目は、家族との関係を示している内容から『家族』、第4因

子の項目は、日常生活をよりよく過ごすための取り組みや姿勢を示している内容から『態度・姿勢』、第5因子の項目は、自分自身の個性を磨く内容から『興味・関心』、第6因子の項目は、積極的な行動を示している内容から『リーダーシップ』、第7因子は、自分自身の健康の内容から『心身の安定』第8因子の項目は、自分自身の肯定感を示している内容から『自己肯定』、第9因子の項目は、日常生活で必要であると感じる行動を示している内容から『心掛けるべき行動』と命名した。抽出された9因子は、統計的手続きにより、現在の高校生における「日常生活充実度」に妥当な因子であるといえる。

Table 4 日常生活充実度の因子構造

変数	アイテム	寄与率	負荷量
第1因子<F1> 運動・スポーツとの関わり		7.7%	
29	家族と運動・スポーツの話をよくする		0.74
21	お金を払って試合会場に行き、スポーツを観たり、応援したりする		0.73
6	テレビでスポーツを観たり、応援したりする		0.69
32	運動・スポーツを学校以外でよくする		0.66
19	家族と一緒に運動・スポーツをする		0.57
第2因子<F2> 感情		7.6%	
36	あいさつをしたり、されたりすると気持ちが良い		0.75
37	ボランティア活動や人助けをしたいと思う		0.68
30	人を喜ばせることが好きである		0.55
38	自然や夜景などを見て感動する		0.54
34	学校の先生が好きである		0.42
5	きちんとあいさつができる		0.42
第3因子<F3> 家族		7.6%	
2	自分の家族は仲が良い		0.83
11	家族と色々な話をよくする		0.76
33	家族を大切に思っている		0.72
13	毎日、楽しく食事をしている		0.57
第4因子<F4> 態度・姿勢		7.3%	
15	一つの事に集中できる		0.67
16	後片づけや掃除を進んでやる		0.65
20	難しいことでも、あきらめず最後までやる		0.62
18	勉強が好きである		0.55
17	まわりの人によくほめられる		0.51
10	約束はきちんと守る		0.45
第5因子<F5> 興味・関心		6.7%	
3	熱中できるものがある		0.83
12	趣味がある		0.77
4	色々なことに興味を持ち、挑戦しようとする		0.62
24	特技がある		0.46
第6因子<F6> リーダーシップ		6.4%	
40	人によく頼られる		0.78
39	リーダーや物事を仕切る役目をよく担当する		0.74
8	まわりの人によく「明るい」と言われる		0.54
第7因子<F7> 心身の安定		5.8%	
23	毎晩、よく眠ることができる		0.68
7	からだの調子が良い		0.63
28	いつもおだやかな気持ちでいる		0.56
31	くよくよしない		0.43
22	まわりの人と協力し合える		0.40
第8因子<F8> 自己肯定		4.6%	
35	自分のことが好きである		0.68
9	勉強ができる		0.45
第9因子<F9> 心がけるべき行動		3.5%	
1	毎日、きちんと朝ごはんを食べている		0.67
26	勉強をすることは大切だと思う		0.58

3.4 「体育授業への意識」と「日常生活充実度」因子の規定関係

高校生における「体育授業への意識」を規定する「日常生活充実度」を明らかにするために、「体育授業への意識」の2項目を目的変数とし、「日常生活充実度」因子を説明変数としてそれぞれ重回帰分析を行った。係数が正の場合、その因子に対する評価が高いほど「好き・楽しい」と肯定的に感じる傾向が高く、係数が負の場合、その因子に対する評価が低いほど「嫌い・楽しくない」と否定的に感じる傾向が高いと解釈した。

3.4.1 体育授業への活動意識

Figure 1 and 2 は、「体育の授業が好きである」

に関する規定要因を比較した結果を男女別に示したものである。

男女共通する規定要因は、『F1:運動・スポーツとの関わり』(男子 $P<0.01$ 、女子 $P<0.001$)、『F2:感情』(男女 $P<0.001$)、『F6:リーダーシップ』(男子 $P<0.01$ 、女子 $P<0.001$)、『心身の安定』(男女 $P<0.05$)が日常生活で充実するほど「体育の授業が好き」と感じる傾向がみられた。

男子にみられる特徴的な規定力は、『F5:興味・関心』($P<0.05$)であった。『F5』は、物事に対して意欲的に取り組む内容である。自分を無我夢中にさせる運動・スポーツに出会い、自主的・自発的に行うことのできる生活を送ることが体育授業への「好き」という意識を高めるといえる。す

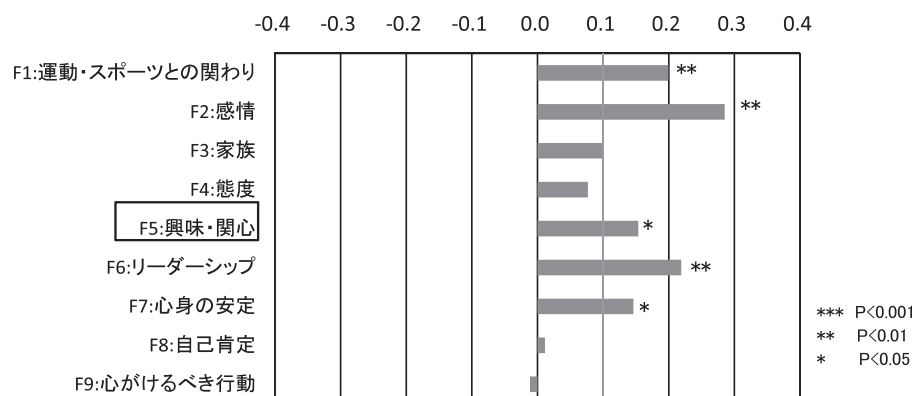


Figure 1 「体育の授業が好きである」における日常生活充実度因子の影響【男子】

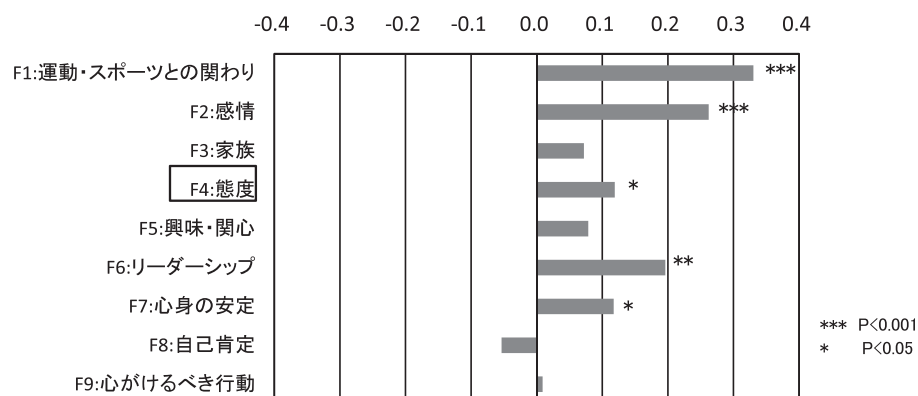


Figure 2 「体育の授業が好きである」における日常生活充実度因子の影響【女子】

なわち、男子における体育授業では、運動・スポーツの技能の確実な習得や練習及び試合などの実践的な取り組みを通して、自分が運動・スポーツの楽しさや喜びを感じ、夢中になり、自信をもって行うことができる運動・スポーツを手に入れ、生徒ひとりひとりに対して生涯スポーツにつなげるためのきっかけづくりのできる授業展開の工夫が必要であると考ええる。

女子にみられる特徴的な規定要因は、『F4:態度』($P<0.05$)であった。この『F4』は、ひとつの物事に対して仲間と協力して最後まで成し遂げる内容である。運動・スポーツは、技能を習得し、ルールやマナーを守り、技能習得やプレーのために仲間同士で教え合い、励まし合い、助け合いによって成立する。その成立により、運動・スポーツの楽しさや喜びを感じることができる。運動・スポーツを行うことを通して、礼儀や規則、仲間の存在を重んじながら楽しさや喜びを感じることができる生活を送ることが体育授業への「好き」という意識を高めるといえる。すなわち、女子における体育の授業では、運動・スポーツを行うためのルールやマナーを理解し、途中辛くても苦しい中であっても最後まであきらめず障壁の向こう側にある達成感や満足感を味わうことができる授業展開の工夫が必要であると考ええる。

3.4.2 体育授業への参加意識

Figure 3 and 4 は、「毎回、体育の授業が楽しい」に関する規定要因を比較したものを男女別に示したものである。

男女共通する規定要因は、『F1:運動・スポーツとの関わり』(男子 $P<0.01$ 、女子 $P<0.001$)、『F2:感情』(男女 $P<0.001$)、『F6:リーダーシップ』(男女 $P<0.01$)が充実するほど「毎回、体育の授業が楽しい」と感じる傾向がみられた。

男子にみられる特徴的な規定力は、図2の結果と同様に『F5:興味・関心』($P<0.001$)であった。先にも述べたように、男子が更なる体育の授業を楽しむためには、授業を通して生徒が興味・関心を抱くことができる運動・スポーツに触れ、自分

の身体や心で直接楽しさや喜びを味わう機会となり、最終的には授業の場のみならず、学校の休み時間、運動部活動、余暇時間などにも積極的に運動・スポーツに取り組むことのできるきっかけづくりとなる授業展開の工夫が必要であると考ええる。

女子にみられる特徴的な規定力は、図3の結果と同様の『F4:態度』($P<0.05$)に加えて『F7:心身の安定』($P<0.01$)であった。女子が更なる体育の授業を楽しむためには、授業を通して仲間とのコミュニケーションや達成感及び満足感の獲得だけでなく、身体的、精神的、社会的における健康を手に入れることのできる授業展開の工夫が必要であると考ええる。

4. 結論

本研究では、高校生における実際の「日常生活状況」及び「体育授業への意識」の関連から「日常生活の充実度」の実体的な構造を検討するとともに、高校生の体育授業への意識が「日常生活の充実度」の機能にどのような影響を与えているのかについて検討した。結果は以下のように要約される。

1. 高校生における「日常生活充実度」が構造化され、充実した日常生活を送るために必要な具体的要素が明らかとなった。
2. 本研究で取り上げた「日常生活充実度」と、「体育授業への意識」及び「運動・スポーツ活動」との分析の結果から、体育授業における運動・スポーツとの関わりが、充実した日常生活に影響を及ぼし、高校生の各意識による具体的な運動・スポーツへ取り組むための方向性が示唆された。すなわち、男子は、体育授業を通して興味・関心を抱くことのできる運動・スポーツに出会い、自分の身体や心で直接楽しさや喜びを味わうことを目的とし、女子は、仲間とのコミュニケーションや達成感及び満足感の獲得、身体的、精神的、社会的における健康を手に入れることを目的とした授業展開を行うという運動・スポーツを通して充実した日常生活を送るために体育授業を展開するための重要なポイントが示唆された。

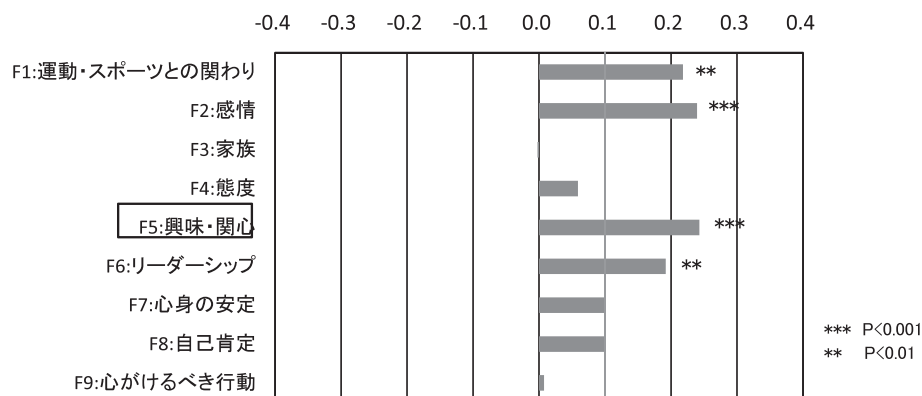


Figure 3 「毎回、体育の授業が楽しい」における日常生活充実度因子の影響【男子】

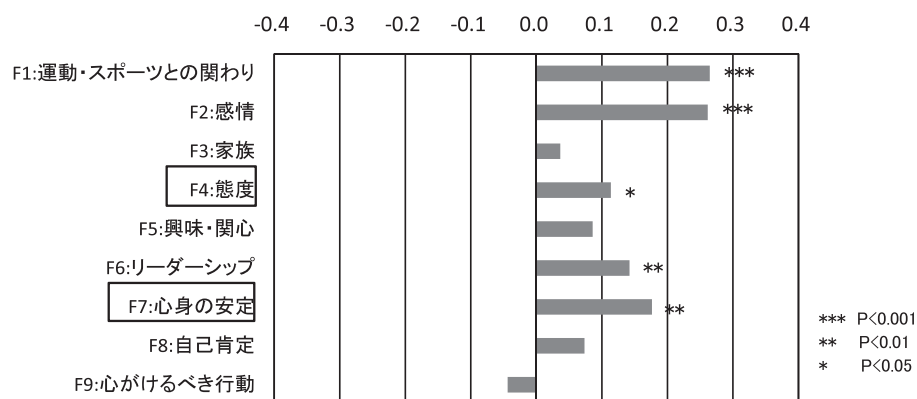


Figure 4 「毎回、体育の授業が楽しい」における日常生活充実度因子の影響【女子】

今後は、本研究で得られた結果をもとに、日常生活における運動・スポーツとの関わりの意義や実践的な体育授業の取組みの実施、その具体的な成果の検証が必要であるとともに、日常生活において自主的・自発的に運動・スポーツを行うことができるために実践的に活用できる水準での体育授業の具体的な内容の追及の必要になると考える。

参考文献

- 1) 岡野昇：体育における「学び」の探究の移り変わり，体育科教育第56巻第6号，大修館書店 p.14-17,2011.
- 2) 鯨井峻：「学び」とは何かー関係論的学び論，体育科教育，大修館書店 p.10-13,2011.
- 3) 佐藤良男,畑攻,齊藤隆志：指導者のための 体育・スポーツ行政,ぎょうせい p.12-36,2011.
- 4) 下坂剛（2001）：青年期の各学校段階における無気力感の検討,教育心理学研究第49巻第3号, p.305-313.
- 5) 津川恵子,長升登志江,坂口守男,他：中学生における生活習慣に関する調査研究ー腹囲,肥満度,体脂肪率等との関連性についてー,大阪教育大学紀要第Ⅲ部門第56巻第2号,p.9-45, 2008.
- 6) 中央教育審議会：21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（中央教育審議会第一次答申）,1997.
- 7) 東京都教育委員会：都立高校生意識調査,2012.

- 8) 林園子,畑攻,小野里真弓,他:都会における子どもの体力・運動能力向上の取り組みとスポーツスタイル,日本体育学会第56回大会予稿集,p.291,2005.
- 9) 林園子,畑攻,小野里真弓,他:都内小学校と女子体育大の連携とマネジメント,日本体育学会第57回大会予稿集,p.154,2006.
- 10) 林園子,畑攻,前田佳奈,他:子どもの基礎基本運動の習熟と生活習慣・運動習慣・意欲に関する研究,日本体育学会第58回大会予稿集,p.242,2007.
- 11) 林園子,畑攻,前田佳奈,他:子どものスポーツのサービス内容とマネジメント(1)ー子どものスタイルと運動習熟状況からの検討ー,日本体育学会第59回大会予稿集,p.164,2008.
- 12) 林園子,畑攻,前田佳奈,他:子どもの基礎基本運動の習熟状況とマネジメントの検討,日本体育学会第60回大会予稿集,p.165,2009.
- 13) 林園子,畑攻,池田延行,他:小学校における体力の向上及び運動習慣の形成と基礎基本運動の習熟に関する研究,日本女子体育大学紀要第39巻,p.35-45,2009.
- 14) 林園子,畑攻,田川絵梨,他:スポーツマネジメントと子どものスポーツ教育(1)ー子どもの総合的スポーツ力の育成の検討ー,日本体育学会第61回大会予稿集,p.165,2010.
- 15) 林園子,畑攻,池田延行,他:小学校における基礎基本運動の習熟状況とスポーツ特性に関する研究,日本女子体育大学紀要第40巻,p.33-43,2010.
- 16) 林園子,池田延行,田川絵梨,他:中学生の日常生活におけるスポーツの機能とマネジメントに関する研究,日本体育学会第62回大会予稿集,p.166,2011.
- 17) 東博文他(2001) 某進学高校生徒における日常生活への影響要因ー部活動との関係を中心としてー,鹿屋体育大学学術研究紀要第25号, p.9-17.
- 18) 日野克博:体育の教育課程をデザインする5つの視点,体育科教育第59巻第4号,大修館書店 p.14-17,2011.
- 19) ベネッセ教育研究センター:調査データクリップ!子どもと教育,2007.
- 20) ベネッセ教育研究センター:第4回学習基本調査報告書,2007.
- 21) ベネッセ教育研究センター:放課後の生活時間調査-子どもたちの時間の使い方[意識と実態]-,2009.
- 22) 前田佳奈,畑攻,小野里真弓,他:子どもの体力向上実践事業の取り組みとマネジメント,日本体育学会第57回大会予稿集,p.154,2006.
- 23) 前田佳奈,畑攻,池田延行,他:小学校における都市型連携システムとマネジメント,日本女子体育大学紀要第37巻,p.75-87,2007.
- 24) 文部科学省:スポーツ振興基本計画,2006.
- 25) 文部科学省:学校基本調査,2009.
- 26) 文部科学省:平成22年度体力・運動能力調査報告書,2011.
- 27) 文部科学省:平成22年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査,2011.
- 28) 文部科学省:高等学校学習指導要領解説保健体育編,東山書房, p.3-12,2010.
- 29) 労働政策研究・研修機構:自立に向けての高校生の現状と課題(報告書),2010.